

「あきらめていませんか」
ヨハネの福音書 5章1節～9節

はじめに

今朝読んだ聖書に出て来る人は、38年間、病にかかっている人でした。彼は癒やされたいと思い、エルサレムのベテスダの池にある回廊に伏していました。それは、「池の水がかき回されるとき、一番に水に入る者は癒やされる」と信じられていたからです。しかし、この人は自分の力ではそこに入れず、水に入れてくれる人もいませんでした。何年もそうして来た彼は、もうほとんどあきらめていました。そこにイエス様が現れ、この人を癒やされたのです。

I 癒やされた（1-9）。

1 よくなりたいか（6）。

イエス様は、そこに来て、伏しているその男をご覧になり、その病が長いのを知って彼に言われました「よくなりたいか」。ここで注目したいのは、イエス様の方から声をかけられていることです。この人は、何もことばを発していません。彼は、そこにはいましたが、ほとんどあきらめていました。

2 池の中に私を入れてくれる人がいません（7）。

「よくなりたいか」と聞かれた彼は、「主よ。私には水がかき回されるとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もう他の人が先に降りて行くのです」と答えました。

イエス様がそこに見たものは、

（1）38年も病に苦しむ人でした。

どのような病気かは、はっきり記されていませんが、おそらく、立つて歩くことが出来ず、毎日床に伏しているような病人でした。しかも、38年という長い間、苦しんで来たのです。

（2）助けてくれる人がだれもない人でした。

この人は、病という体の苦しみだけではありませんでした。「だれも助けてくれる人がいない」という精神的な苦しみ、孤独でした。家族も、友人もいなかったのです。

（3）行こうと努力はするのですが、他の人が先に行ってしまう。

さらに、この人は無力でした。「なおりたい」という気持ちはあるのに、行きかけると、他の人に先を超されてしまいます。

イエス様は、このように「あきらめかけている人」をご覧になったのです。

3 起きて、床を取り上げて歩きなさい（8）。

イエス様は、ご自分を信じて、そのみことばに従って行動を起こすように、お命じになりました。すると、その人は、そのイエス様のことばを信じて立ち上がり、床を取り上げて歩き出したのです。

このことから何を学べるでしょう。

（1）イエス様のことばの力です。

イエス様のことばには、力がありました。神様は、ことばによってこの世界をお造りになりました。創世記1章を見ると、神が「光あれ」と仰せられると、光があった、と記されています。

（2）イエス様のことばを信じる信仰です。

この人は、イエス様のことばを疑わずに信じたのです。この人の信仰が、イエス様の癒やしの力をもたらしました。

4 もう罪を犯してはなりません（14）。

イエス様は、この人の病や孤独の原因が、その人のうちにもあることを指摘なさいました。この人の病は、彼の不節制な生活が原因だったのかもしれませんが。彼の孤独は、彼のわがまま、自己中心にあったのかもしれませんが。この人の38年間の苦しみは、その前の彼の生活が原因だったと思われます。

イエス様は、「そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから」と言われました。イエス様を信じたら、何をしてもいいからと行って罪を犯してはなりません。罪を悔い改めて、罪を犯さないようにすることを、イエス様はこの人に求めました。罪を犯せば、もっと悪いことが起こるかもしれないのです。

Ⅱ キリストを信じる者は永遠のいのちを持つ（24）。

この人の癒やしは、癒やして終わらずに、イエス様はここで、ご自分がどのような者で、信じる者はどのような祝福にあずかるかを明らかにするという、大変重要な出来事となりました。

イエス様は、どのような方か。

（1）神はご自分の父である（18）

（2）子は父が行うことをする（19）

（3）子であることの証言

ヨハネ（33-35） 子が行っているわざ（36） 聖書の証言（39-47）

イエス様を信じる者は、どのような祝福がえられるのか（24）。

（1）永遠のいのちを持つ。

私たちのいのちは、死んで亡くなってしまうものではありません。信じる者には、永遠に神様とともに生きるいのちが与えられます。

(2) さばきに会わない。

「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」のです(ヘブル 9:27)。このさばきによって、人は、永遠のいのちを得るのか、永遠の滅びに至るのかが決まります。信じる者は、滅びに至るさばきを受けません。

(3) 死からいのちに移っている。

このように、信じる者は、死(滅び)から神とともに生きるいのちに移っているのです。

結論

あなたは、あきらめていませんか。イエス様を信じなければ、あきらめと、絶望しかないかもしれませんが、イエス様を信じる者には、希望があり、この希望は失望に終わることはありません。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」とあります(コリント 8:28)。また、「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます」と約束して下さっています(1ペテロ 10:13)。あきらめないで、イエス様を信じて生きましょう。